

令和 7 年度 学校経営計画

1 学校教育目標

(1) 教育目標

豊かな心と健やかな体で、学問・スポーツ・芸術に打ち込み、志を高く、世界を見つめる人間を育てる。

(2) 教育方針

- ア 自主自律の精神を育成し、自ら学習する態度を培う。
- イ 心身を鍛練し、責任ある態度と自他の生命を尊ぶ健全な人格形成をめざす。
- ウ 個性を伸長し、自然と芸術を愛する心を養い、豊かな感性を育てる。
- エ 外国語の習得と積極的な国際交流を通し、国際人としての基礎を培う。
- オ 相互敬愛の念を持ち、社会に奉仕する心を育てる。

2 学校の特徴

本校は、昭和 2 年 4 月に伏木町立伏木商業学校として創設され、今年で創立 98 周年を迎える。国際貿易港・伏木富山港を眼下に望む立地を活かし、長年に渡って、商業科、貿易科、普通科の教育の中で国際理解教育を推進してきた。平成 17 年 4 月の学科改編により、それまでの普通科 4 学級にかわって国際交流科 3 学級が設置された。国際理解教育を中核とする専門学科の単科高校として新たなスタートをきり、今年で 20 周年を迎える。

国際交流科は、国際化社会の中でたくましく生きていくために必要な基礎・基本の学力を培い、コミュニケーション能力を高めることを目標としている。専門的な知識と技能を修得するために、国際理解に関する専門教科や英語に加えて、第 2 外国語として韓国語・中国語・ロシア語のいずれかを学んでいる。また、実践的な語学力と異文化理解を深めるため、韓国、中国、ロシア、アメリカの 4 か国それぞれに友好校をもち、韓国、中国、ロシアの 3 か国と相互交流を行ってきた。

生徒は第 2 学年時にいずれかの国へ語学研修に行き、実践的な語学力を高めるとともに、異文化の理解を通して自己理解を深めている。

3 学校の現状と課題

(1) 現状

本校は県下唯一の国際交流科単独校として、コミュニケーション能力の向上やグローバルな視野を育成している。コロナ禍から始まり昨今の社会情勢等によって本校の国際理解教育の中核である海外語学研修が影響を受けるなか、短期間の海外語学研修や国内語学研修に加え、オンライン交流を行ってきた。今年度は、友好校への海外語学研修（12 月韓国・台湾、ホームステイあり）の実施を予定し、また、受け入れ事業（7 月韓国・10 月台湾）を実施する予定で調整している。友好校との相互交流プログラムを一層充実させ、生徒の国際人としての素養を育みたい。また国際理解教育を軸にした本校ならではの魅力を積極的に外部へ発信していきたい。

生徒は素直で社会貢献意識が高い反面、自己肯定感がやや低い傾向があり、諸活動に自ら取り組むことに消極的な面も見られる。学習面や生活面で、個に応じた適切なサポートをしながら自信をもたせ、国際理解教育や地域貢献の機会を活用し、生徒の主体性・積極性を育みたい。

(2) 課題

- ・学習活動では、生徒が自律的に学習に取り組めるよう意欲や能力を引き出す授業展開や課題を工夫する。タブレット活用により生徒の主体的な学習を促し、学習習慣を定着させる。
- ・SET プログラム（毎朝 5 分間の英語放送）の効果的な取り組み方や活かし方を工夫する。また第 2 外国語の学習において特別講師と連携して具体的な達成目標を共有しながら指導をすすめる。語学研修での友好校との交流を充実したものにする。
- ・学校生活では、基本的生活習慣の定着を軸に生徒の主体性を引き出し、個人面談や授業など学校のあらゆる場面で指導・支援する。多様な背景をもつ生徒や心に悩みを持つ生徒について情報を共有し、SC・SSW 等と連携をしながら学校全体で支援する。
- ・特別活動では、生徒会活動や部活動、地域と連携した諸活動を通して、心身の調和のとれた人格の育成を目指す。読書の機会を増やし、論理的思考力や想像力を磨いて心の豊かさを育む。また語彙を増やすことで自己の思いを言語化できる力を育む。